

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第72号
平成30年1月
生涯学習課



長法寺南原古墳と 新発見の銅鏃

展示期間 平成30年1月30日(火)
～平成30年4月22日(日)
※図書館休館日を除く

平成28年3月に、乙訓地域に残る古墳のうち特に重要性が認められる11基が「史跡乙訓古墳群」として国の史跡に指定されました。長岡京市では、^{いげのやま}恵解山古墳、井ノ内車塚古墳、井ノ内稻荷塚古墳、今里大塚古墳の4基が指定されましたが、平成29年度に長法寺南原古墳が新たに史跡乙訓古墳群に追加指定されることとなりました。また昨年になって、以前に教育委員会に寄贈された歴史資料の中に、長法寺南原古墳のものとみられる銅鏃^{どうぞく}が含まれていることも判明しました。そこでこれを機会に長法寺南原古墳と銅鏃についてご紹介したいと思います。

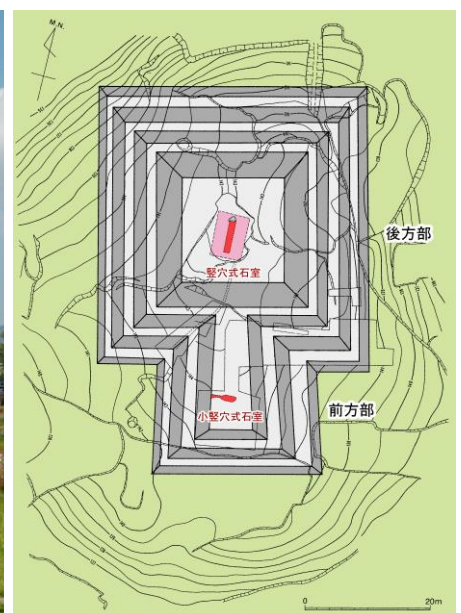
長法寺南原古墳

長法寺南原古墳は、古墳時代前期後半(4世紀後半)に長岡京市域を見下ろす尾根上に作られた当時の権力者の墓です。前方後方墳という、方形と台形をつないだ形をしています。前方部は2段、後方部は3段に作られ、裾には低いテラス状の段を持ちます。^{はにわ}埴輪はありますが^{ふきいし}葺石はありません。昭和9年に後方部の^{たてあなしきせきしつ}竪穴式石室から銅鏡6面、玉類、鉄製武器類などの豊富な副葬品が出土しました。また昭和56年から平成元年(1981～1989)にかけての調査では、前方部にも小竪穴石室があることが明らかとなりました。長法寺南原古墳は、長岡京市域で最初に作られた古墳であり、乙訓一帯の権力者たちの盛衰を知るうえで重要な古墳といえます。



長法寺南原古墳遠景(東から)

古墳は市内のほぼどこからでも見える高い場所に作られています。



古墳の形と埋葬施設

大小二つの埋葬施設がありました。

長法寺南原古墳の副葬品

後方部の竪穴式石室からは、多くの副葬品が出土していますが、特に6面出土した銅鏡のうち4面は、三角縁神獸鏡さんかくぶちしんじゅうきょうという、卑弥呼ひみこが中国からもらったともいわれる貴重なものでした。鏡の裏面に神像と獣の姿を表していて、鏡の縁が三角形をしていることからこう呼ばれます。

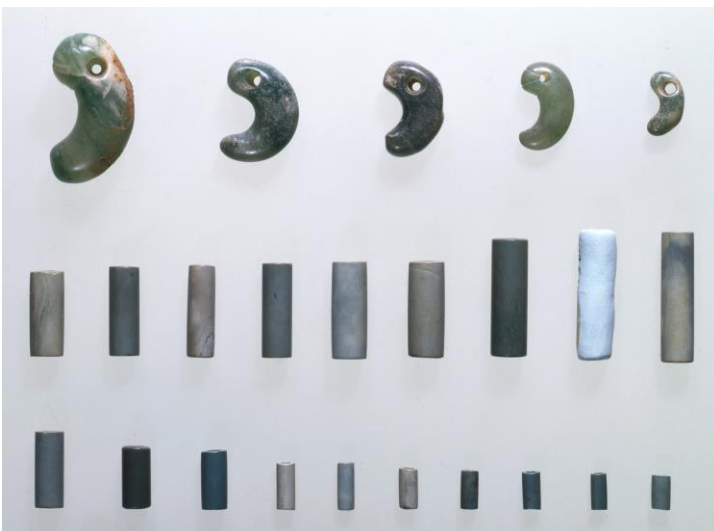
4面の鏡のうち2面は、同じ鑄型か原型から作られたもので、全く同じ形をしています。同じ型の鏡は、兵庫県、奈良県、愛知県、岐阜県の古墳からも見つかっていて、中央の政権から権威のあかしとして、各地の有力者に配られたものと考えられます。このほかに古墳に埋葬された人物が身に着けていたとみられる、美しい色をした硬玉こうぎよく製の勾玉まがたまが6点、碧玉へきぎよく製の管玉くだたまが19点、ガラス製の小玉が287点出土しています。

長法寺南原古墳の銅鏃

古墳から出土した副葬品は、現在東京国立博物館に所蔵されていますが、これとは別に長法寺南原古墳出土品として、京都大学と個人が保管する2本の銅鏃が知られています。昨年になって、以前教育委員会に寄贈されていた歴史資料の中に、この銅鏃とそっくりのものが含まれていることが判明しました。形や色、大きさなどから長法寺南原古墳のものとも間違いなく、同じ工房で作られたものとみられます。これらは非常に丁寧に作られていますが、大きく、重く、とても実用品とは思われません。同じ形の銅鏃は大阪府柏原市の古墳からも見つかっていて、これらも銅鏡と同じく権威の象徴として配られたと考えられます。



三角縁神獸鏡（天王日月唐草文帯二神二獸鏡）



硬玉製勾玉・碧玉製管玉



長法寺南原古墳の銅鏃

（左から：個人保管、京都大学保管、長岡京市保管）